

公共関与型産業廃棄物最終処分場整備候補地選定結果報告書(平成26年8月11日)の概要

背景

- 1 県内の管理型産業廃棄物最終処分場は、実質的に奥州市の「いわてクリーンセンター」のみ
- 2 東日本大震災津波による災害廃棄物等の受入れにより、同センターの埋立終了時期が発災前の予定より4年程早い平成33年頃となる見込み

次期最終処分場の必要性

- 1 産業廃棄物の適正処理の推進
- 2 県内経済産業の振興に寄与
- 3 災害廃棄物等、市町村では処理が困難な廃棄物の最後の受け皿

産業廃棄物最終処分場整備基本方針（平成25年3月策定）

- 1 候補地選定方法：外部有識者による委員会にて選定
- 2 候補地選定範囲：県内全域から選定
- 3 処分場の大きさ：1期分約66万㎡、2～3期分埋め立てできる規模
- 4 処理対象物：廃石膏ボード、燃え殻、ばいじん、汚泥等（いわてクリーンセンターと同じ）

公共関与型産業廃棄物最終処分場整備候補地選定委員会（平成25年6月設置）による選定

- 1 選定の方法
 - (1) 全県から調査対象地を選定し、段階的に絞り込み
 - (2) 選定過程を原則公開（各段階の結果を逐次公表）

2 選定経緯

1次選定 (H25. 9. 26)

115 か所

- (1) 立地回避区域（法規制・開発計画等）に該当しないこと
- (2) 基本方針の埋立規模を確保できること

2次選定 (H25. 12. 26)

39 か所

客観的評価（希少動植物・活断層・水道水源・文教施設等）

3次選定 (H26. 5. 13)

10 か所

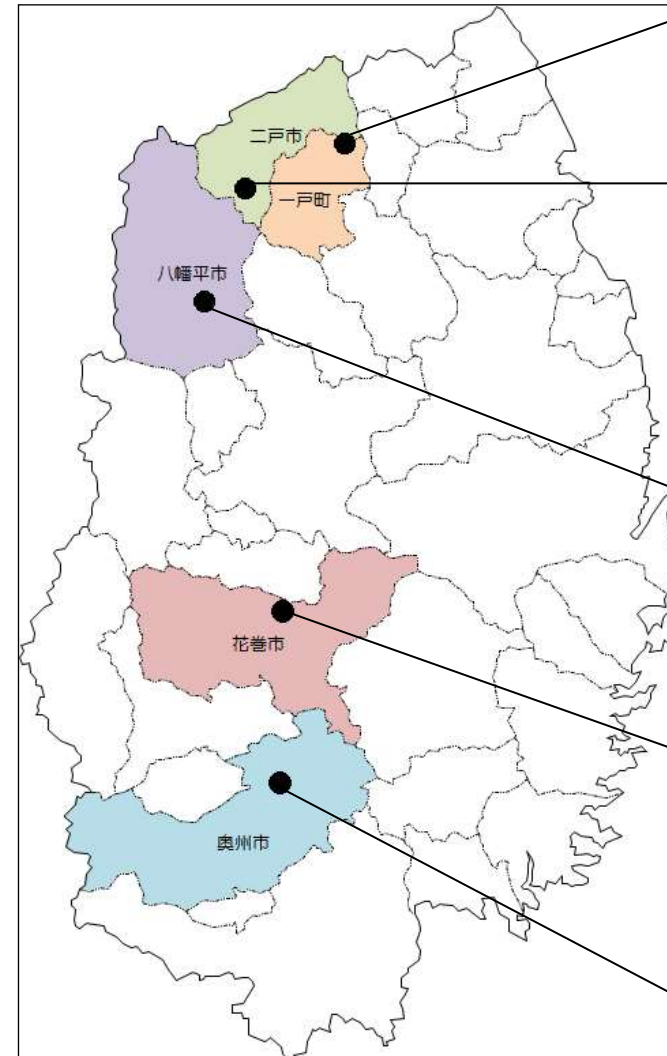
- (1) 客観的評価（アクセス上の障害事象・地域文化の保護）
- (2) 相対的評価（放流先河川までの距離・排出重心(宮古市区界)からの距離)

4次選定 (H26. 8. 4)

5 か所

- (1) 現地調査（地形・地質・景観等）
- (2) 相対評価（放流先河川での利水状況・交通影響・建設費等）
- (3) 総合評価（全評価項目・1市町から1か所以内）

整備候補地の概要



一戸町檜山

- 八戸自動車道に近接する39haの平坦な土地
- 放流先は小井田川、漁業権・農業用水利用あり
- 排出重心までの距離は98km
- 取付道0.3km新設が必要

二戸市浄法寺町漆畑

- 毛無山北側の56haのなだらかな沢地
- 放流先は安比川、漁業権・農業用水利用あり
- 排出重心までの距離は91km
- 取付道1.2km新設が必要

八幡平市平館

- 薬師森東側の39haの平坦な土地
- 放流先は赤川、漁業権・農業用水利用なし
- 排出重心までの距離は61km
- 取付道0.5km新設が必要

花巻市大迫町亀ヶ森

- 赤梅山東側の30haのなだらかな沢地
- 放流先は稗貫川、漁業権・農業用水利用あり
- 排出重心までの距離は48km
- 取付道0.7km新設が必要

奥州市江刺区岩谷堂

- 岩谷堂地区東側の30haのなだらかな沢地
- 放流先は人首川、漁業権・農業用水利用あり
- 排出重心までの距離は84km
- 取付道0.3km新設が必要

選定委員会委員

氏名	所属	役職名	専門分野等
豊島正幸(委員長)	岩手県立大学	総合政策学部長(教授)	自然地理学、土地・水資源利用、水循環
颯田尚哉(副委員長)	岩手大学	農学部教授	環境動態解析、土木環境システム、農業環境工学
東淳樹	岩手大学	農学部講師	保全生物学、動物生態学
大河原正文	岩手大学	工学部准教授	地盤工学、土質力学
小笠原早知子	(一社)岩手県医師会	業務課長	排出実態と動向、排出業者の意向
笹尾俊明	岩手大学	人文社会科学部准教授	環境経済学、廃棄物経済分析
茅野恒秀	信州大学	人文学部准教授	社会学、環境影響評価・環境政策
千葉啓子	岩手県立大学	盛岡短期大学部教授	環境影響評価、水防
中道法子	(一社)岩手県産業廃棄物協会	副会長	廃棄物処理の実態と動向、処理業者の意向
山本博	(一社)岩手県建設業協会	専務理事	排出実態と動向、排出業者の意向

今後の進め方

県は関係市町に対して受入検討を要請するとともに、住民説明会等を開催し、意見・要望を把握しながら、平成26年度内の最終候補地決定を目指す。